対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

Tsushima maru press

発　行：（財）対馬丸記念会
発行人：髙良　政勝
編　集：対馬丸記念会事務局

平成23年12月25日発行　第23号

「沖縄県議会　全会一致で採択」

本会管理運営費補助に関する陳情に

10月14日本会会長宛に、沖縄県議会事務局長より1通のはがきが届いた。

「あなたが本議会に提出された下記陳情は、平成23年第6回沖縄県議会（定例会）において採択されました」

下記の陳情とは「対馬丸記念館に係る管理運営費の補助に関する陳情」である。後日確認したことだが、採択は満場一致だったとのこと。会長、副会長はじめ事務局職員が一丸となり年頭から懸命に努力してきた結果である。平成25年11月までに新しく公益財団法人に移行する必要があり、移行に当たっても財政基盤の確立が重要なことである。篤志家からの寄附に大きく頼ってきた対馬丸記念会の財政は、寄附が激減していることからは極めて厳しい状況にある。

寄附金の状況は、平成20年度において、有り難いことに山田養蜂様からの大口寄附1，000万円を含めて1，567万円、21年度は、大口3件を含め1，000万円、22年度は551万円となっている。社会経済情勢の悪化から、寄附が激減している状況であり、22年度は記念館の管理運営に係る一般会計は、単年度収支で約26万円の赤字となってしまった。赤字は、予備費を充てているが、一般会計の収支見通しは23年度以降も毎年赤字になり、26年度には予備費として持っている1，250万円も使い果たす見通しである。今、抜本的な財源対策に取り組まないと、いよいよ対馬丸記念館の存続が難しくなる。

この様なことから、記念館の管理運営費の補助を県議会に陳情をするとともに県に要請したところである。

「沖縄県学童集団疎開」は国策のもと、沖縄県が「軍艦で行く」「護衛艦もつくから絶対安全だ」と半ば強制的に実施した経緯がある。記念会では学童集団疎開実施の原点に立ち返り沖縄県に対馬丸記念館維持費の補助をお願いした。

会長、副会長はじめ事務局が一丸となり、県議会各会派に出向き対馬丸記念会の実情を話すとともに管理運営費（赤字分、学芸員等2名の人件費及び修繕積立金として1，000万円）の県補助をお願いした。

それと平行して嶺井、米村両本会評議員同行の下、仲井眞知事、県福祉保健部長をたずね、陳情書を手渡し、対馬丸記念会の実情説明と管理運営費の補助をお願いした。

6月定例県議会において、陳情は継続審議になった。今回、全議員に御理解いただいて9月定例県議会において晴れて全会一致で採択された。

県議会で採択は受けたものの、実際に補助の実現するのは11月18日に対馬丸記念館を視察した知事の決断が必要であり、そのためには担当部局（福祉保健部）の理解を得なければならない。われわれが最も困難視しているのは現場を預かる福祉保健部の理解が不可欠である。実際12月1日の県議会答弁でも明確な答弁はしておらず気になるところである。しかし県議会与野党の全会一致採択という意義は大きく、換言すれば「対馬丸記念会への補助」というのは県民の声といえる。県当局としても最善の努力をして、日本にただ一つの「子どもの平和記念館」を維持し、県内外へ平和の発信をして頂きたいものである。

国の事業費と併せた支援で継続して平和活動を推進

対馬丸記念館支援「相談あれば聞く」

厚労相

【東京】細川律夫厚労相は5日の参院決算委員会で、対馬丸記念館（高良政勝館長）への支援について「施設の運営費は運営主体で賄うことになっていることを承知しているが、厚労省は対馬丸記念館における遺族の相談事業などについては県への補助を実施している。県から相談があれば、話をお聞きしてしかるべく対応したい」と述べた。公明党の秋野公造委員が高良館長の話として、「遺影を掲示するお金が足りず、生存者の声を放送するパネルモニターを修理するためのお金もなく、現在使えない状態だ」と厳しい運営状態にあることを報告、「船が海に沈んだため、遺骨がないのであれば遺影こそがお墓であり、（記念館支援は）遺骨収容の一環としてやるべきだ」と国の支援を求めたことに対する答弁。

公益法人改革に伴う同館を運営する対馬丸記念会への支援について、園田康博内閣府政務官は「県とも連携し必要な助言などしていきたい」と述べた。

▲平成23年8月8日　琉球新報より

「対馬丸記念館支援を」

与党県議団、知事に要請

県議会与党会派でつくる与党県議団は19日、仲井真弘多知事に対し、対馬丸記念館（那覇市）の管理運営費の補助支援を国に働き掛けるよう要請した。仲井真知事は「要請の意向に沿うような方向で、県も力を入れて取り組みたい」と答え、同館への財政運営補助支援に対して前向きな考えを示した。

宮里達也福祉保健部長は「戦後の慰謝事業には県として取り組まなければならない。ただ実務上越えなければならないハードルもあるので、これから調整したい」と話した。

▲平成23年10月23日　琉球新報より

対馬丸の灯危うし

平和の標（しるべ）　戦後66年

子供ら1476人が犠牲になった学童疎開船「対馬丸」の悲劇を後世に伝えようと2004年に開館した対馬丸記念館（那覇市）の運営に黄信号がともっている。事業活動費（運営費）の大半を占める寄付金収入が景気低迷の影響を受けピーク時の3分の1に落ち込み、映像機器や施設のメンテナンスにも影響が出ている。同館は「戦争に巻き込まれた子供たちのためつくられた日本で唯一の平和記念館の灯を消すことはできない」（高良政勝館長）と県に支援を求めている。（知念清張）

記念館の展示室。1台の映像機に故障中の張り紙＝那覇市若狭・対馬丸記念館

寄付 3分の1に減

記念館、修繕ままならず

常設展示や光熱費などに充てる事業活動費の大半を占める寄付金はピーク時の08年度1566万円から09年度1060万円、10年度551万円と激減。遺族らでつくる対馬丸記念会会員の会費111万円や入館料収入443万円などを合わせた昨年度の事業活動収入は1154万円で25万円の赤字に転落した。

語り部の証言映像など、悲惨な体験を分かりやすく伝える3台の映像機器のうち1台は故障。「イヤホンも頻繁に壊れ、映像機器の修理に10万円近くかかる」ため修理のめどがたっていない。また、台風で強い風雨に見舞われると事務所の壁などから水が染み出す。

「プロジェクターの電照やエレベーター管理費など今後施設維持にかかる費用は増える一方」だという。

開館当時101枚だった学童の遺影も274枚に増えた。遺族から寄せられる小さく傷みの激しい写真を修復し、パネル展示するためには1枚7千円から1万円ほどかかる。「収集写真が増えるほど運営が厳しさを増す」皮肉な状況だ。戦時中の状況を説明できる学芸員も、配置できない。

国は企画展などに年間1100万円を補助している。だが、国からの補助金は使途が限定され、運営費には使えない。那覇市も固定資産税など約130万円を免除するなどしているが、県からの支援はない。

高良館長は県と県議会に陳情書を提出。「不安定な寄付に頼るのは今後の運営を考えた場合極めて厳しい」として、「未来を担う子供たちに平和の種をまき、育むための施設。戦時下で県は学童疎開を強力に推進した。原点に返り、県も戦後処理の一つとして、協力してほしい」と県に運営費の補助を訴えている。

◀ことば

対馬丸記念館　那覇から九州へ向かった学童疎開船「対馬丸」が1944年8月22日、米潜水艦に鹿児島県悪石島沖で撃沈された悲劇を後世に伝えるため2004年に国が建設費約2億4千万円、展示経費6000万円を支出して開館。年間入場者は1万3594人（2010年度）で増加傾向にある。県は国による慰謝事業として実施されていることや県議会の同意がない限り、財政支援は厳しいとの姿勢を示している。

▲平成23年9月18日　沖縄タイムスより

対馬丸記念館運営(経営)の健全化へ県補助を陳情！

対馬丸記念館 県支援触れず

福祉保健部長答弁

宮里達也福祉保健部長は27日、県議会9月定例会の代表質問で、対馬丸記念館が財政難となり、県に支援を求めていることについて「記念館は、国による対馬丸慰藉（いしゃ）事業として実施され、対馬丸記念会が全額国庫補助を受けて建設した。開館後も国が継続して記念会を支援している」と述べ、国による事業と強調した。

その上で「県は、入館者増に向けた記念会の取り組みに対する国庫補助を継続して確保しているところで、今後とも記念会と連携し事業費の確保に努める」と述べ、県独自の支援については言及しなかった。

▲平成23年9月28日　沖縄タイムスより

対馬丸記念館 県支援検討へ

知事「看過できない」

多くの学童が犠牲になった学童疎開船の悲劇を伝える対馬丸記念館（那覇市）の運営が困難になっている問題で、仲井真弘多知事は19日、「看過するわけにはいかない」と述べ、県の支援策を具体的に検討する考えを示した。

同館から提出された県へ管理運営費補助を求める陳情については、13日の県議会最終本会議で、全会一致で採択された。

▲平成23年10月20日　沖縄タイムスより

資金不足の対馬丸記念館 知事視察 補助前向き

仲井真弘多知事は18日、資金不足から県に管理運営費の補助を求めている那覇市若狭の対馬丸記念館を視察し、「県も応援したい」と述べ、補助に前向きな姿勢をあらためて示した。

館内を案内した対馬丸記念会の高良政勝会長は映像資料や子どもたちの遺影など展示物を解説しながら、漏水やデジタル機器の故障を修繕できないほか、常勤職員を雇えない現状を説明。「国が施設を建ててくれたが、管理が大変。学童疎開を進めた県も責任を果たしてほしい」と訴えた。

仲井真知事は「想像以上に立派な施設だ。もう一度検討し、県でやれることは何でもやりたい」と応じた。

同館は2004年に国の慰藉（いしゃ）事業で建設されたが、管理運営は同会に任され、年平均334万円の赤字を寄付でまかなってきた。景気悪化などで寄付が激減し、現状では3年後の14年には余剰金が底を突くため、年間1000万円の補助を県に求めている。

高良政勝会長（右）から説明を受ける仲井真弘多知事＝18日、那覇市・対馬丸記念館

▲平成23年11月20日　沖縄タイムスより

対馬丸記念館 知事、補助に前向き

「県も応援したい」

仲井真弘多知事は18日、財政難のため県に1千万円の管理運営費の補助を求めている那覇市の対馬丸記念館（高良政勝館長）を視察した。知事は「県でやれることはやる。一度話を聞かせてほしい」と前向きな姿勢を見せた。

高良館長の案内で、記念館や小桜の塔を見学した仲井真知事は「きちっと資料も集めており、こんな立派なものだとは知らなかった。県でも応援したい」と話した。

対馬丸記念館は、子ども1476人が犠牲になった学童疎開船「対馬丸」の悲劇を後世に伝えようと国の慰藉（いしゃ）事業として2004年に開館。遺族らでつくる対馬丸記念会が運営しているが、運営費の大半を占める寄付金が落ち込み、機器や遺影の修繕ができない状態となっている。また、予算がないため、学芸員もおらず常勤職員も一人もいない。

▲平成23年11月19日　琉球新報より

平成二十三年度 対馬丸慰霊祭

■平成二十三年八月二十二日　於：小桜の塔

今年も対馬丸慰霊祭がしめやかに執り行われました。例年のような炎天下の時間を避け、初めての試みとして午前十一時に開式しましたが、遺族の皆様に概ね好評でした。

▲仲宗根義尚沖縄県遺族連合会長

▲仲村家春那覇市副市長

鎮魂のチョウ 空へ

350人集い対馬丸慰霊祭

犠牲者への鎮魂と平和への思いを託し、オオゴマダラを空に放つ参列者ら＝22日、那覇市若狭の「小桜の塔」

1944年に米軍潜水艦に沈められた学童疎開船「対馬丸」の犠牲者を悼む2011年度対馬丸慰霊祭（対馬丸記念会主催）が22日、那覇市若狭の「小桜の塔」で行われた。慰霊祭では、生存者や遺族ら約350人が参列し、幼くして亡くなった尊い命に祈りをささげた。

対馬丸事件を題材にした劇「命（ぬち）どぅ宝」を企画・脚本した女優の三枝万祐さんと出演する那覇市内の小学校児童13人が「ふるさと」など2曲を合唱。続いて参列者らが犠牲者への鎮魂と平和への思いを託し、オオゴマダラを空に放った。また対馬丸事件の犠牲者と東日本大震災の犠牲者に対して、1分間の黙とうをした。

対馬丸記念会の高良政勝会長は「子どもたちがよりよく生きていけるように、同館として平和の火を消さぬようあらゆる努力をしていきたい」と決意を語った。

アメリカのカリフォルニア州から毎年参列に訪れている生存者の宮城マリア・バートラーフさん(80)は14歳の時、祖母と弟、いとこを対馬丸で亡くした。自身も海に投げ出された後、何匹ものサメに襲われ、左足の太ももをかまれながらも懸命に泳ぎ、4日間の漂流に耐えた。宮城さんは「時間はたったが、事件を一度も忘れたことはない。今でもサメにかまれた夢にうなされる」と事件の悲惨さを語り、亡くなった家族に対し「生き延びて申し訳ない気持ちだが、家族の分まで懸命に生きていきたい」と話した。

▲平成23年8月23日　琉球新報より

「命どぅ宝ー対馬丸の悲劇」の公演は、協賛企業、遺族・支援者の皆様、新聞をご覧になった一般観劇の皆様のお陰を持ちまして、盛況裏に終える事が出来ました。

また、出演児童たち、物心両面でご支援戴きました御父母様、対馬丸児童合唱団として、ゲスト歌唱をして戴きました児童ならびに指導の、高里千穂先生に深く感謝申し上げます。

平和の尊さ 児童熱演

「命どぅ宝－対馬丸の悲劇」パレット市民劇場

撃沈された対馬丸の悲劇を熱演する児童ら＝17日、那覇市のパレット市民劇場

劇団結い座公演「命どぅ宝ー対馬丸の悲劇」（同劇団主催、対馬丸記念会共催）が17日、那覇市のパレット市民劇場であった。学童疎開船対馬丸に乗船していた児童の後輩に当たる那覇市内の小学生ら40人が出演し、平和の尊さ、戦争の恐ろしさを表現した。

対馬丸は沖縄戦前年の1944年8月、米潜水艦に撃沈され、学童を含む千人以上が犠牲になった。劇はその中から奇跡的に生き延びた4人の子どもたちが助け合いながら懸命に生きた事実を基にした内容。

対馬丸に乗船していた児童が通っていた小学校や対馬丸記念館近くの小学校など、対馬丸にゆかりのある7小学校の児童がプロの俳優に交じって熱演。対馬丸記念会の高良政勝会長は「戦争を知らない子どもたちが劇を通し、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを知り、練習を通して人間的に成長した」と話した。

上演前には那覇市内の4小学校の児童と那覇少年少女合唱団による「つしまの歌」など4曲を披露した。

公演は18日も同会場で正午と午後3時の2回、上演される。入場料は大人2300円、小中学生800円。

▲平成23年9月18日　琉球新報より

「小桜の塔」清め 平和へ努力誓う

天妃小児童

那覇市立天妃小学校6年生92人が17日、学童疎開船「対馬丸」の犠牲者を祭る那覇市若狭の「小桜の塔」を訪れた。平和集会で児童らは黙とうや合唱、千羽鶴をささげた後、「平和を壊すものには嫌だと叫び、平和を自分たちのものにしていこう」と平和へのアピールを力強く宣言。周辺の清掃活動もした＝写真。

▲慰霊の前に、平和活動で小桜の塔の清掃に汗を流す天妃小児童
平成23年6月21日　琉球新報より

同小6年は毎年、地域の歴史や平和の大切さを学ぶため、小桜の塔を訪れている。伊良波奈央さん(11)は「戦争で犠牲になったたくさんの人に祈りをささげた。私たちは絶対に戦争はしたくない」と語った。屋田巧教諭は「戦争を起こさないために、悲惨な沖縄戦の記憶をつないでいきたい」と話した。

講師の指導のもと研修を受ける受講者ら
＝3日、那覇市の対馬丸記念館

「対馬丸館」語り部養成講座

記憶継承へ30人認定

7月から実施されていた2011年度「対馬丸記念館の語り部養成講座」が3日行われた実地研修を終え、約30人が語り部として認定された。

今後、対馬丸記念館を訪れる観光客らに「語り部」として、対馬丸事件の概要や経緯などを伝えていく。

これまで、語り部は対馬丸事件の遺族などが担ってきたが、高齢化などさまざまな理由で活動が困難となっていた。

そこで、観光客などと接する機会の多いバスガイドやタクシー運転手など、観光関係者を主な対象にして講座を開いた。

研修は約1カ月間行われ、対馬丸事件や当時の事件を知る証言者から聞き取りなどを行ってきた。

最後の研修となった3日は、ひまわりバスセンターの西原せつ子所長の指導を受けながら、同館の案内の順序や分かりやすい説明方法などを学んだ。

研修後には、修了式が行われ、対馬丸記念会の高良正勝会長が認定証を交付し、「研修を生かして、平和教育の語り部として頑張ってほしい」と激励した。

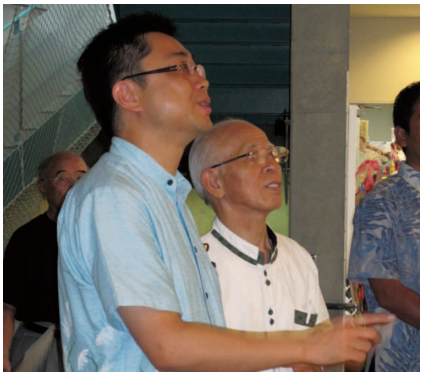
認定証を受け取ったバスガイドの喜友名悦子さん(29)は「対馬丸については以前から興味があった。対馬丸事件をまだ知らない人が多いと思うので、語り部としてしっかり伝えていきたい」と語り、気持ちを引き締めた。

◀平成23年8月9日　琉球新報より

視察

□7月31日

公明党秋野公造参議院議員が当館を視察訪問。高良館長より当館のおかれている現状や窮状を綿密にヒアリングされ、国会質問につなげていただきました。（別掲の新聞記事参照）



トピックス

□7月13日～8月3日

語り部や講師の方を招き、約30名の受講生を対象に、記念館にて「対馬丸記念館語り部養成講座」を開講しました。（別掲の新聞記事参照）

イベント

□6月13日～26日

第16回特別展「テレジン収容所にいた小さな画家たちパート1」

第二次世界大戦中、テレジン収容所で過酷な境遇の中、明るい未来を信じて子供たちが描き続けた絵や詩のパネル展を企画展示室において開催しました。

□6月13日～26日

同パート2を開催しました。資料貸出：埼玉県平和資料館

□8月19日～26日

第17回特別展「昭和の暮らし」

戦前から戦中、戦後までの人々の生活用品の移り変わりや、戦争に関わる資料などを展示しました。資料貸出：東京／昭和館

□9月4日

「2011年　いのちの歌コンサート」（共催・混声合唱団「クリスタルおきなわ」）

児童合唱、混成合唱、ソロコンサートと三部構成にわたり素晴らしい歌が披露されました。

□10月30日

第18回ちゃーがんじゅう講座

「目からウロコ！！肉食ダイエット～琉球豚肉料理で長寿の源～」を、企画展示室にて開催しました。講師には特定医療法人沖縄徳洲会こくらクリニックの渡辺信幸院長を迎え、患者さんからの実体験紹介を交えながら、医学的観点から、食生活と長寿の関係性を説きました。

ご寄附

愛楽園里山るつ様より2万円、信ヶ原千恵子先生より3万円（京都沖縄県人会大湾会長より収受）、遺族金城文子様より3万円、喜屋武延子様より香典返し10万、沖縄歯科インプラント研究会様より28万8千円、琉智様より20万円

□「命どぅ宝」広告協賛金

医療法人陽心会大道中央病院様より一〇〇万円、那覇空港ビルディング株式会社、沖縄特定免税店株式会社、沖縄県教科書供給株式会社様より各10万円を頂戴致しました。

□2月22日～11月27日（日付順）

久米崇聖会、外間邦子、渡口眞常、募金箱、亀島淳一、宮沢貞子、石嶺朝三、枝川政光、中山良正、小川祐子、翁長孝枝、仲宗根義尚、大森節子、友寄賢吉、山本彩香、中島輝正、☒平名優子、平良啓子、新垣幸子、宜野座久美子、羽太勝子、柳澤千恵子、鈴木京子、犬塚信子、津波古ヒサ、渡名喜元嗣、平良税理士事務所、高良政勝、真栄平朝正、新城美由紀、儀間真勝、仲田行克、宮里正春、屋比久嘉光、幸喜つね子、細川靖則、名城淑江、又吉治子、砂川みさ子、幸地秀子、斉藤幸江、芳賀順雄、名城悦子、渡口眞邦、屋富祖なほ子、仲村悦子、あさひ保育園屋宜初枝、我喜屋敏子、渡那喜よし子、又吉キク、新垣真治、中園博文、島元智、太田恭子、島谷、島谷淳子、島袋則子、光文堂コミュニケーションズ（株）、屋宜初枝、上辻治、吉岡済、（株）沖縄債券回収サービス、土肥義胤、大森節子様、以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。

お知らせ

□監事が交替しました

当財団設立時から色々と関わりがあり、監事を務めておりました照屋寛氏が健康上の理由で退任し、新たに渡名喜元嗣氏が平成23年5月28日付けで就任致しました。

□NHK戦争証言アーカイブス視聴ブース設置

前号でお知らせ致しましたNHK戦争証言テレビ番組の対馬丸証言「海に沈んだ学友たち」が受付前のパソコンで常時視聴出来るようになりました。NHKが同番組で取材・編集・放送した戦争関連の貴重な映像の他、当時のニュース映像等もまとめられたアーカイブス（書庫）です。番組で使用されなかった部分のインタビューも見る事が出来ます。対馬丸関連の証言者は、新崎美津子さん、儀間真勝さん、喜屋武盛守さん、平良啓子さん、糸数裕子さん、中島高男さん、堀川澄子さんの七名です。

HPアドレス（http://www.nhk.or.jp/shogenarchives/）